

教務だより

2017年2月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

サクラ咲く日まで

茗溪塾塾長 宇野 雅春

中学受験が終わり、高校受験、大学受験と流れが続いています。合否に一喜一憂している、塾では一番厳しい季節です。このつらい時期に勇気を与えてくれたのが、テニスの全豪オープンです。ナダルとフェデラーの決勝戦。3時間半の熱戦というだけでなく、周りを大きく感動させたのには理由がありました。この話を、テニスの知らない人に話しても全く意に介さないみたいなので少し説明をさせていただきます。

ロジャー・フェデラーは、世界歴代1位で17回のグランドスラムで優勝した経験のある名実ともにトップクラスの選手です。一方のラファエル・ナダルは世界歴代2位の14回のグランドスラム優勝の経験を持っています。グランドスラムというのは、国際テニス連盟が定めた4大大会を指します。全米 全仏 全豪 そしてウインブルドンです。

数年前、私が初めてテニスに興味を持ったころはすでにフェデラーは後景にいてナダル全盛の時でした。現在トップのジョコビッチとマレーも当時のナダルにはどうやっても勝てず、ナダル自身は当時全仏で5連勝したり、負けを知らないトップ選手として不動の強さを見せていました。それがここ数年、なかなか決勝に上がれず、家庭の事情や不調が噂され、「どうしたのかね？」みたいな感じだったのです。そのナダルが今回の全豪オープンでは、決勝進出を最初に決めました。続いて膝の故障でオリンピックと全米オープンで欠場したフェデラーが決勝に進出して来ました。錦織に勝ったときのフェデラーの動きがとてもよかったのを記憶していたのですが、若手の気鋭を破り決勝に進出してきたのは驚きでもありました。フェデラーは35歳、若い選手がどんどん出てくる中で、当然徐々に上位から退いていくものと思っていたのです。再びこの激戦を制覇して決勝まで来るとは、思ってもみませんでした。決勝戦は死闘といってもいい一進一退が続きました。長いラリーと手に汗握るプレーが続きいつの間にか3時間半…。大接戦の末35歳のフェデラーが本当に僅差で優勝しました。その瞬間TVに映る会場が大きな感動に包まれました。私自身も胸が熱くなりました。ちょうど入試の真っ最中、思ったようにすべてが成功裏に行くわけではありません。心の葛藤の真ただ中において、毎日祈るように合格を願いながらいたこともあったせいかもしれません。すでに大きな業績を残している2人が、ともに長い不調を乗り越えて、見事に復活したという事…。世界の頂点に立ちながら、そこまで道を究めた人でも、多くの苦難を日々経験しているという事、その厳しさはいかばかりかということに心を揺さぶられ、その努力が報いられたということに大いに慰められたのです。

受験の失敗に耐えながら、受験を続けていくことにそれは重なってきて、こういうことは一生を通してずっと続くことなのだと、改めて思いました。

受験生の皆さん！受験終了までこの辛さは続きます。桜咲くその日まであと少し、心を強く持って力を尽くしましょう。